

6:58 これは天から下って来たパンです。あなたがたの父祖たちが食べて死んだようなものではありません。このパンを食べる者は永遠に生きています。」

6:59 これは、イエスがカペナウムで教えられたとき、会堂で話されたことである。

6:60 そこで、弟子たちのうちの多くの者が、これを聞いて言った。「これはひどいことばだ。そんなことをだれが聞いておられようか。」

6:61 しかし、イエスは、弟子たちがこうつぶやいているのを、知っておられ、彼らに言われた。「このことでああなたがたはつまづくのか。」

6:62 それでは、もし人の子がもといいた所に上るのを見たら、どうなるのか。

6:63 いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話したことばは、霊であり、またいのちです。

6:64 しかし、あなたがたのうちには信じない者がいます。」——イエスは初めから、信じない者がだれであるか、裏切る者がだれであるかを、知っておられたのである——

6:65 そしてイエスは言われた。「それだから、わたしはあなたがたに、『父のみこころによるのでないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできない』と言ったのです。」

6:66 こういうわけで、弟子たちのうちの多くの者が離れ去って行き、もはやイエスとともに歩かなかった。

6:67 そこで、イエスは十二弟子に言われた。「まさか、あなたがたも離れたいと思うのではないでしょう。」

6:68 すると、シモン・ペテロが答えた。「主よ。私たちがだれのところに行きましょう。あなたは、永遠のいのちのことばを持っておられます。」

6:69 私たちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています。」

## はじめに

### 信仰の大切さ

コリント第一 13:13 こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。

今日 4月 10 日から、12 日、19 日と 3 回にわたって OIC でメッセージを取り次がさせていただきます。それぞれ、この個所でいつまでも残るものとして挙げられた信仰、希望、愛を順番に取り上げていきます。まず、信仰の重要性について聖書が何と語っているか見てみましょう。

ヘブル 11:6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。

この箇所の冒頭は、信仰の大切さを伝えます。後半は、本物の信仰がどういうものかを教えてくれます。神との関係が不可欠です。本物の信仰とは、神の存在を信じるだけでなく、神に喜んでいただくためにどう生きるべきかを知るために神を求めることです。ヘブル 11 章全体が、信仰について教えています。

エペソ 2 : 8-9

2:8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。

2:9 行いによるものではありません。だれも誇ることのないためです。

信仰がなくては救い也没有ありません。信仰は神から与えられるもので、私たちが持って生まれたものではありません。

ヘブル 12:2 信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。

イエスは私たちの信仰の創始者であり完成者であります。ですから、自分には信仰が足りないと心配する必要はありません。イエスを自らの救い主として受け入れたなら、イエスが私たちに本物の信仰を与え、責任をもってその信仰を完成させてくださいます。

ヨハネ 6 章で、イエスのご自身がいのちのパンだと教えておられます。ここから、私たちは本物の信仰の特徴をいくつか学ぶことができます。

### 1) 神を第一に求める。

ヨハネ 6 : 26-27

6:26 イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからです。

6:27 なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい。それこそ、人の子があなたがたに与えるものです。この人の子を父すなわち神が認証されたからです。」

群衆は、イエスの素晴らしい奇跡を目撃し、奇跡をもって備えられた食事にありつく経験までしました。このような奇跡の直後、人々はイエスを王にしようとしてしました。そんな彼らにイエスは、あなたたちは神ではなくこの世の物を求めているだけだとおっしゃいました。あれほどの大きな奇跡を見ても、彼らはイエスを信じることはできませんでした。神よりもこの世のものを求めていたからです。

同じことが誰にでも言えます。私たちは他の何よりも神をまず求めたときに、本物の信仰と信仰の確信を得ます。

エレミヤ 29:13 もし、あなたがたが心を尽くしてわたしを捜し求めるなら、わたしを見つけるだろう。

心を尽くして神を捜し求めるとは、神を第一に求めるという意味です。そうすれば、私たちは神の約束が本当だと知ります。神は私たちの祈りに答え、信仰の確信を与えてくださいます。

ローマ 10:17 そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。

これは、ただ座って神のみことばを聞いていれば不思議と信仰が生まれるという意味ではありません。むしろ、みことばに従ってイエスを主と告白するなら、信仰が神のみことばによって与えられるということです。

マタイ 6:33 だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。

これは、神を第一に求める人にとって素晴らしい約束です。私たちのすべての罪が無償で完全に赦され、そのうえ、物質的なニーズもすべて満たされるのです。本当の満足を得る唯一の方法は、この世の何よりもまず神を求めることです。

## 2) 見ずに信じる。

ヨハネ 6:30 そこで彼らはイエスに言った。「それでは、私たちが見てあなたを信じるために、しるしとして何をしてくださいますか。どのようなことをなさいますか。」

信じられないことに、彼らは前日に大きな奇跡を見たにもかかわらず、まださらなるしるしや奇跡を求めています。ここからわかるのは、奇跡を見ることで信仰は生まれえないということです。神のみことばを聞くことによってのみ、信仰は生まれます。人が神のみことばを聞いて信じないなら、奇跡を見たとしても信じないでしょう。イエスの奇跡を見ても、イエスが死人をよみがえらせるのを見ても信じない人はいました。

イエスは特に当時のユダヤ教指導者に向かってこうおっしゃいました。「「悪い、姦淫の時代はしるしを求めています。だが預言者ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられません。ヨナは三日三晩大魚の腹の中にいましたが、同様に、人の子も三日三晩、地の中にいるからです。」

残念ながら、多くの人はいしるしや奇跡を重視します。教会でさえも、しるしを重視するあまり、奇跡を見ることで信仰が生まれると誤解する人が多くいます。私の友人で、よく冗談を言う伝道者がいます。彼はこのことについて、「私もしるしと不思議を信じます。しるしが見えないと不思議に思うのです。」と冗談めかして言います。これは、本物の信仰の正反対です。目に見える証拠を見ずに信じるのが本物の信仰です。

ルカ 16:31 アブラハムは彼に言った。『もしモーセと預言者との教えに耳を傾けないのなら、たとえだれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。』」

イエスは、死後の世界にいるふたりの人の話をとおして、大切な真理を教えておられます。金持ちは、5人の兄弟が死後に地獄の苦しみに遭わずに済むよう生きているうちに誰かを遣わして警告してほしいと頼みます。これに対する返答は、彼らには神のみことばである聖書が与えられているのだから、聖書に耳を貸さないなら、死人がよみがえっても信じないだろう、というものでした。

ヨハネ 20:29 イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」

イエスは、「見ずに信じる者は幸いです。」とおっしゃいました。「幸いです」とは、ただうれしいとか幸せという意味ではありません。これは、すべての罪の赦しと天におけるすべての霊的祝福をもって神から祝福されているという意味です。トマスは、信じたかったけれどもなかなか信じられませんでした。イエスは彼のためだけに現れてくださり、完全な信仰の確信を与えてくださいました。イエスを信じたいという思いで救い主になってくださいと願い求める人なら誰でも、イエスは同じようにしてくださいます。この出来事は、イエスが信仰の創始者であり完成者であることを明確に示す例です。ですから、トマスと同じように、なかなか信じられないと感じている人は、イエスを受け入れて、その信仰を口で告白することを躊躇しないでください。そうすれば、主はあなたのもとに来てくださいます。トマスにされたように目で見えるかたちではなくても、あなたの心の中でご自身を現し、信仰の確信を与えてくださいます。だからこそイエスはトマスに「見ずに信じる者は幸いです。」とおっしゃったのです。私は、政治上の紛争の中で生まれ育ちました。20歳のとき、政治犯として服役中にテレビで映画「ベンハー」を観ました。その映画で、イエスが十字架にかけられるシーンを見ました。子どものころからクリスチャンの両親に何度も聞かされていた場面です。子どものときは、イエスが私の罪のために死なれたということがわかりませんでした。その映画を観て突然、自分の罪のために死なれたことがわかりました。私の罪が世の罪とともに神の御子イエスを十字架につけたのだ、ということがわかったのです。すると、イエスについていきたい、もうこれ以上自分のために生きたくない、このお方のために生きたい、という思いが湧いてきました。夜通しこのことについて考え、翌日、「主イエスよ、私の罪をお赦してください。私の心の中においでくださり、私の救い主になってください」と短く祈りました。すぐには確信は得られませんでした。イエスがどのようにして心の中に来てくださるかわかりませんでした。それから聖書でヨハネの福音書を毎日読むようになりました。最初に助けてくれたみことばは、ヨハネ 6:37 でした。「父がわたしにお与えになる者はみな、わたしのところに来ます。そしてわたしのところに来る者を、わたしは決して捨てません。」このころ、私は不安でした。私が聖書を毎日読むようになったのを見て、それまでの私を知っていた他の服役囚からクリスチャンになったのかと聞かれたのです。私は「そうだ」と答えましたが、心の中では信仰の確信がなく、本当に自分はクリスチャンになったのだろうかと思っていたからです。それでも信仰の確信を与えてくれるものを求めつつ、2週間毎日聖書を読み続けました。そして、ガラテヤ 2:20 を読みました。「2:20 私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。」このとき、イエスが私のもとに来て、心の目を開いてくださいました。そして、主が今も生きておられ、私の心に住んでくださっていることをわからせてくださいました。信仰の確信を与えてくださったのです。私は生まれて初めて、すべての罪を赦された喜びと平安に満ち溢れるという体験をしました。トマスのように、私も最初は信じたいのに信じられませんでした。私はトマスと同

じように双子なので、トマスとはふたつの共通点があります。イエスは私たちの心をご存知です。イエスを信じたいという思いでイエスを求めてできることをなんでもするなら、主は私たちのもとに来てくださいます。そして、トマスや私、イエスを求めるすべての人にしてくださったように、ご自身を現し、信仰の確信を与えてくださいます。

### 3) 納得できなくても信じる。

ヨハネ 6 : 57-60

6:57 生ける父がわたしを遣わし、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者も、わたしによって生きるのです。

6:58 これは天から下って来たパンです。あなたがたの父祖たちが食べて死んだようなものではありません。このパンを食べる者は永遠に生きます。」

6:59 これは、イエスがカペナウムで教えられたとき、会堂で話されたことである。

6:60 そこで、弟子たちのうちの多くの者が、これを聞いて言った。「これはひどいことばだ。そんなことをだれが聞いておられようか。」

イエスのことばを理解できなかったので、多くの者がイエスを離れていきました。これは、彼らが信仰を失ったということではありません。イエスとの関係をさらに深められなかったということです。イエスのなさることで納得できない部分については、従うことを拒否したからです。

ペテロを始め 12 弟子たちも、このときイエスの教えを理解していませんでした。彼らがわかっていたのは、イエスがどういうお方であるか、ということです。他のことについては後に最後の晩餐でわかるようになりました。聖餐式に込められた、イエスの肉を食べ血を飲むことの霊的な意味です。私たちは、信じて従う前に、神の永遠の真理を理解できると誤解しがちです。

箴言 3 : 5-6

3:5 心を尽くして【主】に拠り頼め。自分の悟りにたよるな。

3:6 あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。

これこそ、イエスに喜んでいただく道です。主がなさっていることを理解できないときも主に従うのです。聖書には、イエスが喜びにあふれたと語る個所がひとつだけあります。もちろん、イエスは常に聖霊に満たされておられたので、御父のみこころをなすことで喜んでおられましたが、はっきりと喜びにあふれたと書かれているのはここだけです。

ルカ 10:21 ちょうどこのとき、イエスは、聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現してくださいました。そうです、父よ。これがみこころにかなったことでした。

こう発言されたのはどのような場面だったでしょう。これは、70 人の弟子たちが町や村に遣わされ、御名によって経験した御力に喜んで帰ってきたときでした。イエスは何についてこれほど喜んでおられるのでしょうか。「幼子」が神の啓示を経験していたことです。イエスが「幼子」と呼ばれた人たちは皆、

大人でしたが、幼い子どもたちのように謙虚にイエスに従ったのです。イエスを何より喜びで満たしたのは、御父だけが栄光をお受けになることでした。神の働きはすべての人を同等にします。そこには、人の能力を誇る余地はありません。才能や能力に関係なく、誰でも神の真理の啓示をいただけるのです。世界一の天才でも、イエスのことばを信じて従うまでは、神の真理に目は開かれませんが、霊的なことを理解するカギは、学力ではなく、謙虚さと従順です。

信仰は、永遠の真理を確信させてくれます。永遠の真理は、学術的にも科学的にも証明できません。天地創造や私たちの存在意義もそうです。聖書に見られる神の真理は、科学と相反しませんが、人の能力が頼みの科学をはるかに超えたものです。

今日の聖書箇所にあるペテロの信仰告白は、本物のクリスチャン皆が言えることです。「私たちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています。」この順番が大事です。まず信じて、確信をもって知るのだからです。ペテロのこの言葉は、マタイ 16 : 16-17 の言葉に似ています。その後イエスはペテロに言われました。「あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。」イエスがどういうお方であるかを知っているなら、私たちはペテロと同じように幸いです。というのも、神が私たちに直接示してくださらない限り、イエスを知ることは誰にもできないからです。

## まとめ

コリント第一 1 : 22-24

1:22 ユダヤ人はしるしを要求し、ギリシヤ人は知恵を追求します。

1:23 しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えるのです。ユダヤ人にとってはつまづき、異邦人にとっては愚かですが、

1:24 しかし、ユダヤ人であってもギリシヤ人であっても、召された者にとっては、キリストは神の力、神の知恵なのです。

イエスは、私たちの心を変える神の力とされます。とくに、信じられないところから信仰を持つようにならせてくださいます。そして、神の真理を理解できるように神の知恵となってください。「これは、神の御前でだれをも誇らせないためです。」（コリント第一 1:29）

では最後に、もう一度ヨハネ 6 : 37 を読みましょう。これは、イエスによって与えられたもつとも素晴らしい約束のひとつです。

6:37 父がわたしにお与えになる者はみな、わたしのところに來ます。そしてわたしのところに來る者を、わたしは決して捨てません。

イエスについていきたいと思う人は誰でも、ありのまま受け入れてもらえると確信できます。理解できないことがたくさんあっても、信じ切れないと思っていいても大丈夫です。